



2021年5月13日

各位

会社名 R e t t y 株式会社  
代表者名 代表取締役社長 武田 和也  
(コード番号: 7356 東証マザーズ)  
問い合わせ先 執行役員コーポレート 土谷 祐三郎  
部 門 担 当

TEL. 03-6852-1287

### 2021年9月期の業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年5月13日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、昨年11月13日の2020年9月期決算発表時に開示した2021年9月期（2020年10月1日～2021年9月30日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 当期の業績予想数値の修正（2020年10月1日～2021年9月30日）

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,270 ～2,380	50 ～200	40 ～190	140 ～340	12円26銭 ～29円79銭
今回修正予想 (B)	1,950 ～1,999	△303 ～△254	△376 ～△327	△379 ～△330	△33円09銭 ～△28円81銭
増減額 (B-A)	△381 ～△320	△454 ～△353	△517 ～△416	△670 ～△519	△52円60銭 ～△45円35銭
増減率 (%)	△16.0 ～△14.1	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (2020年9月期)	2,215	△283	△274	△324	△33円23銭

#### 2. 修正の理由

現在、世界中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大による影響が継続しており、飲食業界を取り巻く環境は混迷の中にあります。日本国内においては、足元で現在3度目の緊急事態宣言が東京をはじめ一部地域にて発令中であり、飲食店に対しては休業や時短が要請されており、営業活動自体が困難な状態にあります。

一方で、諸外国においては感染の減少やワクチンの普及により飲食店の売上が回復しているエリアも出てくるなど将来に関して明るい兆しも少しずつ見え始めております。

このような事業環境の中、当社においてもオンラインを通じた営業活動や当社の営業手法の見直しなどを行うと同時に、COVID-19を契機とした飲食店のデジタルトランスフォーメーション(DX)の進展に合わせたモバイルオーダー等の新商品の投入など、様々な施策を実施しております。

2020年11月に当社が公表した2021年9月期の業績予想は、COVID-19の影響により著しく停滞している社会経済活動が緩やかに回復していくことを前提としておりましたが、2021年1月8日に2度目、2021年4月25日に3度目の緊急事態宣言が発令され飲食業界をめぐる経済活動が引き続き停滞していることを受け、広告コンテンツについては大型受注等の影響で前回予想から大きな変動はありませんが、主にFRMにおいて3度目の緊急事態宣言による新規参画店舗数の減少とチェーン店を中心としたイレギュラー解約の増加による保有店舗数の減少（前回発表の業績予想比3,300店舗程度）、また飲食店向けの支払免除の影響を加味した上、今後の新規参画店舗数回復を目的とした営業人員体制維持・拡充の投資約100百万円を織り込み、2021年9月期の業績予想を修正いたします。

COVID-19がいつ収束するかは依然として見込みが立たず、不透明な事業環境が継続していることから、2021年9月期の業績予想につきましては、修正後もレンジでの開示を維持しております。

売上高の上限値については緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が6月以降9月末まで継続しないことまたは発令されないことを前提としている一方、下限値については緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が、6月以降9月末まで2ヶ月間程度の期間をもって再度発令されることを前提としております。

前回の業績予想では黒字を見込んでいたことから、翌期以降において回収可能と判断される繰延税金資産を約100百万円計上することを見込んでおりましたが、今回の業績予想において赤字を見込んでいること、及びCOVID-19の影響が長期化していることを受け、繰延税金資産の回収可能性についても見直しを行っており、2021年9月末時点では繰延税金資産の計上が見込まれないこととなったため、これに係る法人税等調整額が約100百万円減少しております。

なお、上記の業績予想は本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上